

## ポブペックのやさしい投資信託

第47回 美味しい話

### (11) 美味しい話に近づくな

以前、「プリンストーン債」という商品が話題になった事があります。日本の企業がこの商品を購入して1,000億円以上も損害を被ったとの事。何が問題だったのでしょうか？

今回は販売後に問題が生じた金融商品について考え、販売話法についてまとめてみましょう。

#### プリンストーン債って何？

プリンストーン債とは、プリンストーン研究所が運用し、「元本保証、高利回り」をうたって販売された商品です。しかし結果的には、元本を償還することが全く不可能なくらいに損失を被ってしまいました。プリンストーン研究所のアームストロング氏はとても有名なアナリストであり、大手新聞やテレビにも頻りに顔を出し、日本株式の行末や為替の動向についてコメントをしていたのです。

プリンストーン債が何故問題になったのでしょうか。それは「分別管理をしていなかった」ということにつきまします。つまり、償還期限の到来した債券の償還原資として、新しく集めた債券の資金を充てていたということなのです。これ自体非常に問題ある行為であり、元本保証をうたっていたことから考えると、証券詐欺と考えてもおかしくありません。

#### 他にも似たような事例はある

昨年、G&G社という米国の会社から、円建ての元本を保証する高利回りファンドが投資信託と称して発売されました。しかし、出資法に違反する恐れがあるとマスコミに指摘され、金融監督庁がこの会社に対して注意を行うと言う事件が起こったのです。

#### 美味しい話は存在するか？

仮に元本保証で高利回りの商品があったとしましょう。あなたならどうしますか？私なら全ての預金、投信を解約してこの商品を購入するでしょう。更に借金をしてこの商品を購入するかもしれません。借金の金利よりも、金融商品の金利が高ければ、

無一文でも利益をあげる事が出来ます。多くの人が私と同じように考えるはずですが。

そうすると、その金融商品には無限に資金が集まる事になります。無限に集まった資金で運用会社は、割安なものを買うか割高なものを持って利益を得ようとしています。しかし、それだけ多額の資金を投入すれば、割高なものもいつかは割高ではなくなるし、割安なものも割安ではなくなるのです。そうすると高利回りでの運用を続けることはできません。その時に運用会社が宣伝文句を守ろうと無理をすると、プリンストーン債のように、償還金が全くなってしまふ事だってあり得るのです。

つまり、元本保証で高利回りの商品と言うのは理論的に存在しえないのです。必ず何らかのリスクがあるはずですが。「リスクがなく元本保証で高利回り」という商品は、何時か必ず無理が生じ、破綻への道を歩む事になるのです。

#### 美味しい話に引っかけられないためには

- (1)元本保証で高利回りの商品はあり得ないということを忘れない。
- (2)元本保証の場合には、誰が保証しているのかを確認する。胡散臭い業者の場合、提携先をあたかも保証しているように宣伝します。
- (3)リスクがどこにあるのかを理解する。
- (4)リスクがどこにあるのかを理解できない場合には購入しない(販売しない)。
- (5)有名な人が関係していても、それと金融商品の安全度を同一視しない

ここまで説明すると、何を言いたいかをご理解頂けるのではないのでしょうか。投信を購入際には、その商品はどこにリスクがあるのかをきちんと理解しなければならないのです。今後は、元本確保に近い仕組みの商品が続々と出てくると思います。必ず、その商品にはリスクがあるはずですが、そのリスクが分からない場合には、購入してはいけません。